

ICTを活用した「未来の小金井教育推進プラン」

教育スローガン

笑顔いっぱい、ワクワクいっぱい。

様々な課題に対して当事者意識をもって、
創造的に問題解決しようとする子供の育成

子供1人ひとりの「Agency」の育成

- 1 新たな価値を創造する力
- 2 責任を取る力
- 3 緊張関係やジレンマを調整する力

AARサイクルでの実践

—STEAM教育の推進—

幅広い分野で、新しい価値を創造できる人材の育成
— 産学連携・地域連携・人材の活用のさらなる充実 —

『知る』⇔『創る』の循環

- 効率的な知識の獲得と
創造的な学びの充実
- アクティブラーニングの
さらなる充実

超情報化社会を 生きる力の育成

- 万全のセキュリティー
スキルの獲得
- 情報リテラシー獲得
(プレゼンテーション能力・タイピング等)
- 情報活用能力

個別最適化学習の推進

- いつでも (必要とする時)
 - どこでも (学校・家庭でも)
 - 何度でも (納得するまで)
 - どんな状況でも (登校できなくても)
- ☆ 1人ひとりの特性や習熟の程度に応じて

協働学習 の推進

まなびポケット・
G Suiteの活用

プログラミング教育

- 答えのない問い
 - 論理的思考力の育成
- AARサイクルの実践 —

EdTech等の活用

小金井GIGAスクール構想

子供1人に1台のコンピュータの整備
高速インターネット環境の整備

新しい授業を創造 する教師へ

教育資源の情報化
(共有ホルダーの活用)

- ・ 指導事例・実践の共有
- ・ 教材の共有
- ・ 個別対応事例の共有

校務の情報化
(校務用パソコンの活用)

- ・ 起案決裁の効率化
- ・ 成績管理の効率化
- ・ 各種計画の共有

教員の 働き方改革

情報共有による
業務の削減・効率化

Agencyとは:(OECD Education2030 プロジェクトより)

自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力

・これまでの枠にとらわれず、新しい価値を創造する力・将来の目標を見据え、責任をもって行動する力・自ら積極的に、対立やジレンマを調整する力

☆小金井市では、その子の特性等を踏まえ、その子なりの「Agency」を育むことを目的とする。

STEAM教育とは:

Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsの頭文字をとったものである。これは、AI等の進展により、人の役割が大きく変化し、複雑化する現代社会の問題を、各教科・領域特有の知識や考え方を統合的に働かせて解決しようとする学習である。

その目的として

①科学・技術分野の成長や革新・創造に特化した人材育成を志向する

②すべての児童生徒に対する市民としてのリテラシーの育成を志向する

☆小金井市では、子供の実態を踏まえ、ICTを効果的に活用して協働学習を充実させることにより、STEAM教育に取り組む。

超情報化社会を生きる力とは:

AIやビッグデータの活用による最近の情報化の進展は、人間の生き方そのものを大きく変える可能性がある。そのような「超情報化社会」の中でも、情報に振り回されることなく、情報を適切に扱い、自分らしく、よりよい生活を送れるようになるための「新しい情報活用能力」を身につける必要がある。

☆小金井市では、今後、次世代教育推進委員会において、1人1台のコンピュータ活用方法の検討だけでなく、未来を豊かに生きることができる情報リテラシーについて検討するとともに、定着に向けた教材開発を行うこととする。

知る→創るの循環とは:

教科や総合的な学習の時間や特別活動等のカリキュラム・マネジメントを通じ、1人ひとりの子供の学びに対するワクワク感を呼び覚まし、知識を習得する(=「知る」)ことと、探究・プロジェクト型学習(PBL)の往還を通じ、創造的・論理的に思考し、未知の課題の解決策を見出す(=「創る」)ことが循環する学びを実現すること。

☆小金井市では、デジタル教材や動画等により、効率的に知識を獲得することによって、友達や教師さらに、専門家等との対話を重ねる時間を確保し、未来を創造する基礎を学び、未知の問題解決への意欲を高めることを目的とする。

個別最適化学習とは:

スタディ・ログ等を蓄積した学びのポートフォリオを活用し、子供1人ひとりの学習傾向や活動状況を捉えて、教師が子供に適切な学習課題を自覚させること、及び、子供が自ら自身の課題を解決するための学習課題や教材を選択できる環境を整えること。

☆小金井市では、どのような環境下でも、「学びを止めない環境」を整えることを加える。

新しい授業を工夫・創造する教師とは:

未来の教育を実現するためには、教師の「権威」や「指揮権」を手放し、「教壇の賢人」から「子供の学びに寄り添うガイド役」になることが求められる。

☆小金井市では、子供の声に耳を傾ける能力、子供が自ら解決したいと思える課題を提供できる能力、子供の思考を広め、深めるための適切な問い掛けができる能力、子供の思いを形に示す能力、子供がもてる力を形にする能力、学級集団の共通のビジョンを明確にし、実現可能な方向に導く能力等を、未来の小金井の教育を実現する教員に求められる能力であると捉える。また、これらの能力は、保護者・地域等にも浸透することを期待するものである。